

令和2年度 自己点検・自己評価結果

1. 自己点検・自己評価の目的

看護師養成所の責任として教育水準の維持・向上を図るために、教育活動及び学院運営のあり方全体を自己評価するものです。

2. 結果

教育活動の9カテゴリー（48項目）に対する教職員の評価を、3段階の点数化から4段階「思う：4点」「やや思う：3点」「あまり思わない：2点」「思わない1点」に変更しました。4段階にすることで尺度の段階間の距離をできるだけ均等にし、改善点について教職員の評価をより把握できると考えました。

集計結果から、9つのカテゴリー平均点は3.4点でした（表1）。全カテゴリー48項目別の平均点は表2に示しました。また、カテゴリー別評価結果は図1、カテゴリー別評価割合は図2に示しました。

カテゴリー別平均点のうち3.0点以上は7カテゴリー、2.9点以下は2カテゴリーでした。

表1 カテゴリー別平均点

カテゴリー	評価項目の概要	カテゴリー別平均点
I 教育理念・教育目的 (4項目)	教育理念・教育目的は学院の教育上の特徴を示し、学修指針の明示。教育内容、教育方法、教育環境を述べ、卒業時の学生像を明示。	3.6
II 教育目標(4項目)	教育理念・教育目的と教育目標の一貫性、到達目標を示し看護実践能力の育成表現、卒業後の継続教育の考えを示した目標の設定。	3.6
III 教育課程経営 (9項目)	教育目的・目標に沿った教育課程編成、単位履修方法・単位認定基準、教育課程の評価体系の整備。教員の担当科目と準備時間、実習施設確保、安全教育の体制。	3.5
IV 教授・学習・評価課程 (4項目)	看護学教育として妥当な授業内容か、授業内容に応じた授業形態、目標達成評価とフィードバック、学習の動機づけと支援体制。	2.9
V 経営・管理過程 (11項目)	設置・管理運営に関し教職員の理解、意思決定システム・役割の明確化、組織決定事項の周知、施設設備、学習継続支援体制、教育活動への関係者の協力支援、中長期・年間計画立案、自己点評価取組み。	3.4
VI 入学(4項目)	入学者選抜方法の明確化、選抜方法妥当性検討、入学制確保活動。	3.8
VII 卒業(4項目)	卒業時の目標到達および就業・進学状況分析、就業先での問題分析、卒業生の活動状況把握と分析。	3.4
VIII 地域社会(3項目)	地域社会貢献、教育活動へのニーズ把握、地域への情報発信。	3.4
IX 研究的活動(5項目)	自己研鑽・相互研鑽システム整備、研究活動への支援体制、研修成果の教育活動への反映。	2.7
平均点		3.4

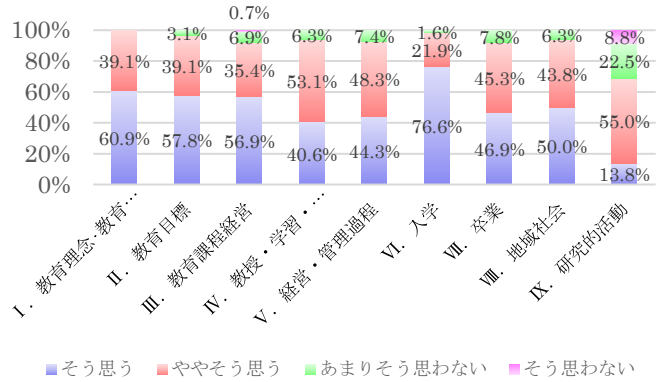
表2 9 カテゴリー項目別平均点

カテゴリー	項目	項目別平均点	カテゴリー別平均点
I. 教育理念・教育目的	1. 看護学院の教育上の特徴を示し、法との整合性がある。	3.7	3.6
	2. 学生の学修の指針となるよう明示し、指針となっている。	3.5	
	3. 看護師の質確保のための教育内容、教育方法、教育環境を述べている。	3.6	
	4. 卒業時の資質を明示し社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3.6	
2II. 教育目標	5. 教育理念・教育目的と一貫性があり、教育内容を網羅している。	3.6	3.6
	6. 教育活動の到達目標を示し、具体的で表現可能なもの。	3.5	
	7. 育成すべき看護実践能力と、学習者として目標を設定。	3.4	
	8. 卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標である。	3.6	
III. 教育課程経営	9. 明確な根拠をもって教育課程を編成している。	3.5	3.5
	10. 明確な考え方と根拠で科目・単元を構成し、教育目的・目標に対して妥当である。	3.8	
	11. 科目配列、履修方法、単位履修の方法と制約をわかりやすく示している。	3.7	
	12. 単位認定の基準・方法は妥当である。	3.6	
	13. 教育課程を評価する体系を整えている。	3.4	
	14. 教員の専門性を配慮した担当科目・時間数を配分し授業準備時間をとれる体制を整備。	2.5	
	15. 臨地実習施設を確保し、指導体制がとれている。	3.7	
	16. 対象者の権利尊重の考え方にに基づき学生指導を計画的に行っている。	3.6	
IV. 教授・学習・評価過程	17. 安全教育、安全対策を計画的に行い、発生事故の把握と分析をしている。	3.7	2.9
	18. 授業内容は科目目標と看護学の教育内容として妥当、科目間の整合性、発展性が明確。	3.4	
	19. 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じ選択し効果的指導体制がとれている。	1.6	
	20. 目標達成の評価とフィードバック	3.3	
	21. 学習への動機づけと支援ができています。	3.4	
V. 経営・管理過程	22. 設置・管理運営に関する管理者の考え方が明示され、教職員は理解している。	3.5	3.4
	23. 組織体制は教育目的達成のために意思決定システムや権限、役割機能が明確である。	3.2	
	24. 組織構成員の意思の反映や決定事項の周知がされている。	3.1	
	25. 教職員任用の考え方と資質向上対策の考え方は、教育理念・教育目的と整合性がある。	3.4	
	26. 教職員は、どのような財政基盤で成り立っているかを理解。	3.4	
	27. 必要な施設設備及び備品を計画的に整備し、状況に合わせて整備している。	3.5	
	28. 学習継続のための支援体制が整っている。	3.5	
	29. 教育・学習活動に関する関係者の協力支援を得ている。	3.2	
	30. 看護師養成機関として、社会的説明責任を果たしている。	3.5	
	31. 中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3.4	
	32. 自己点検・自己評価組織があり、課題や改善への取り組みを継続している。	3.6	
VI. 入学	33. 入学者選抜委員会を組織し選抜の考え方を明確にしている。	3.8	3.8
	34. 入学後の成績、学習状況を分析し、選抜方法の妥当性を検討している。	3.6	
	35. 入学試験に関して公平性、公明性を確保し、一貫した対応をしている。	3.8	
	36. 積極的な募集活動を行い、入学者の確保に努めている。	3.8	
VII. 卒業	37. 卒業時の教育目標の到達状況を捉え、分析している。	3.6	3.4
	38. 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3.6	
	39. 卒業生の就業先評価を把握、あるいは調査し問題を明確にしている。	3.1	
	40. 卒業生の活動状況を把握、あるいは調査し、分析している。	3.2	
VIII. 地域社会	41. 教育活動をとおして、地域社会への貢献を組織的に行っている。	3.6	3.4
	42. 教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3.3	
	43. 教育活動について、地域に情報発信しているか	3.3	
IX. 研究的活動	44. 教員が自ら成長できる自己研鑽のシステムを整えている。	2.9	2.7
	45. 教員が相互研鑽できるシステムを整えている。	3.0	
	46. 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)し、助言・検討する体制を整備。	2.1	
	47. 教員は研修目標を明確に持ち、成果を教育活動に反映させている。	2.9	
	48. 研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある。	2.7	
	全体	3.4	3.4

図1 カテゴリー別評価結果



図2 カテゴリー別評価割合



1) 各カテゴリー別評価

I 教育理念・教育目的

生命の尊厳と個人の尊重を教育理念とし、十勝地域の保健医療福祉の向上発展に貢献できる職業人を育成するために教職員全員で教育運営をしています。看護師の使命と役割を果たす上で日頃から責任ある行動をとれる人になることを徹底して求め、豊かな人間性と倫理観を身につけた専門職業人に育つことを願い、主体的な学習及び自律した生活に向け支援しています。

II 教育目標

評価項目のうち「育成すべき看護実践能力と学習者としての目標設定」、「教育活動の到達目標の明示」はカテゴリー平均点よりやや低い結果でした。学生には入学時や年次開始時、実習開始のオリエンテーションで看護実践能力および学習目標を周知しています。現在新カリキュラム構築中であり、育成すべき能力の明示に対する問題意識の高まりが影響していると考えます。教授・学習活動について常に評価・修正しながら明確な到達目標の設定と周知・学生との共有への努力を継続していきます。

III 教育課程経営

評価項目のうち「科目・単元構成の妥当性」と「臨地実習における指導体制」及び「安全教育・安全対策」の平均点は高く、教育目標の達成に向けて各科目・単元のねらいを検討し、講義・演習・実習と計画的に取り組んできた結果といえます。臨地実習においては、十勝管内の各自治体が本学院の設置主体であることから、多くの関係機関の協力のもと、多様な施設での実習を行っています。主たる実習施設である帯広厚生病院とは毎月委員会を開催し、連携を密にしながら看護師の育成に多大な力を頂いています。本学院を巣立った卒業生は、十勝管内に広く根付いて看護職の育成にバトンをつないでおり、臨地実習を支えています。

「教員の専門性を配慮した担当科目・時間数の配分、授業準備時間の確保」は評価項目の中で最も低い結果でした。教員は皆学生と対峙し直接関わる指導時間を非常に大切にしており、講義等の準備は自宅で実施している状況にあります。今年度はコロナ禍による感染対策のための学習環境の調整及び毎日の健康確認や生活指導等にかかなりの時間を費やしており、例年とは違う業務量の増加をきたしました。また、臨地実習の中止に伴い教育内容と方法の変更を余儀なくされ、学内実習計画の立案・調整等にも時間を要したため、授業の準備時間の確保はより困難でした。しかし、学生への手厚い支援が学生たちの安心につながっており、教員の大事にしているところでもあります。教育活動の状況に応じた応援体制等、速やかな業務調整と授業準備時間が確保できる体制づくりへの努力が必要です。

IV 教授・学習・評価過程

9カテゴリーの中で2番目に低い結果でした。また、評価項目のうち「授業内容に応じた授業形態（講義、演習、実習）の選択と効果的な指導体制」が全48評価項目中で最も低い結果でした。緊急事態宣言による臨時休校の間、家庭での課題学習となり、登校後も分散講義やリモート講義の実施、さらに臨地実習の中止による学内実習への変更と学生たちの学習が制限されたことが大きく影響している

と考えます。しかし、学生の学びを支援するために教員全員で試行錯誤しながら教育内容・方法を検討してきたことで、例年以上に学生のレディネスに合わせた学習ねらいの再検討と教育方法の工夫につながっているといえます。各年次の学生の経験・学びの整理と次年度への課題・目標を明らかにして今後の教育活動につなげていきます。

V 経営・管理過程

十勝管内市町村の財政支援と経営管理体制のもとで安定した学院運営が維持されています。施設設備の修繕や学修に必要な教材購入は計画的に行い、学習環境の整備に努めています。

今年度は感染対策の徹底と学修の保障のために学校としての方針の決定・周知と教育課程の実施及び経営管理上の問題を速やかに解決することが例年以上に求められました。教職員がそれぞれの立場で主体的に役割を果たし、学修環境の整備や学生たちの学修の保障に尽力しました。また、コロナ禍への対応としてオンライン授業ができるよう整備しました。新しい学習や生活の形が求められる中、学生たちがより良い教育環境の中で安全に安心して学修できること、併せて組織として速やかな判断・周知とタイムリーな業務調整を課題として改善に努力していきます。

VI 入学

カテゴリー平均点は9カテゴリーで最も高い結果でした。入学試験および選抜協議のあり方への理解が得られており、入学試験に関する公平性、公明性は確保されているといえます。積極的な受験生確保対策として学院見学会の開催回数を増やし、受験生のニーズを考慮した企画や高校訪問でのPRをしました。更に、今年度は受験生確保対策推進委員会を立ち上げ、委員会で作成した学院広報ビデオの高い反響も評価点に影響したと考えます。

次年度末で入試制度改正から3年分の卒業生データが蓄積されるため、入試成績と入学後の成績の推移を分析し、選抜方法の妥当性の評価を開始する予定です。

VII 卒業

評価項目のうち「卒業生の就業先での評価の把握や問題点の明確化」、「卒業生の活動状況の把握・調査・分析」が低いという結果でした。卒業生の就業実態調査は5年ごとに実施していますが、就職先で卒業生が抱える課題や困難さ等の実態や活動状況の把握はしていません。昨年度から組織した学校関係者評価委員会は、臨地実習施設関係者及び看護や教育に知見を有する者、学院の卒業生が構成メンバーであるため、卒業生の活動状況と卒業後の状況について把握するとともに、広く卒業時の就業施設と卒業生からも把握し、教育活動を評価することが課題と考えます。

VIII 地域社会

近年、地域のボランティア要請に積極的に応えていましたが、今年度はコロナ禍のため要請がほぼない状況でした。感染症の拡大状況と社会経済の動向を注視しながら、十勝地域のニーズをとらえる視点をもち地域貢献していくことが必要と考えます。

IX 研究的活動

例年同様、最も平均点の低い結果でした。研究的活動に取り組むことのできる組織的な体制づくりは継続課題です。現状においては看護技術指導や看護過程演習、臨地実習指導などの教材化に関して議論しながら改善点を見出し、教授活動に反映させることを継続していきます。

<今後の課題>

- コロナ禍における授業内容に応じた効果的な授業の実施（講義・演習・実習）
- 授業準備時間の確保のための業務管理
- 研究的活動への体制づくり